

品川区保護司会  
～荏原東分区～

# ハローインフォメーション

## 第 33 号



発行者 品川区保護司会荏原東分区

分区長 太田 明



## 新型コロナウイルスを受けて

荏原東分区長 太田 明

希望に燃える令和2年、今年は待望のオリンピックの年、何かウキウキするような年を迎えたとだれもが思ったことでしょう。しかし、2月頃から新型コロナウイルスの感染拡大で、国内はもとより世界中に拡大し、大変な事態となってしまいました。オリンピックは令和3年に延期となり、多くのイベントは中止、わたくし達の生活、そして、経済も大きな影響を受けました。わたくし達の保護司会も7月の社会を明るくする運動をはじめとして、定例研修も中止となり、保護司としての活動もできなくなってしまいました。そんな中でも荏原東分区は、2月に静岡刑務所、10月に八王子「紫翠園」の施設参観、ひがし会（自主研修）2回の開催など、感染防止の対策を講じながら実施してきました。当たり前に行っていたことができなくなってしまい、本当に厳しい現実を突きつけられた思いです。非常事態宣言も2回発令され、一時は減少したものの、気の弛みなのでしょうか、再び、以前よりも感染者数は増大し、全国的な広がりが見られるようになりました。わたくし達の日々の生活、そして、働き方も様変わりせざるを得ない状況になってきました。すでに「コロナ禍」と言う人や、「コロナと共存」など、捉え方にも変化が出てきました。では、一体どのようなスタンスで受け止めて行けば良いのでしょうか。コロナ危機で、考えなくてはならないこと。わたくし達人類は、すみやすい社会にするために、自然を破壊し、気候変動を引き起こし世界中で異常事態を招いています。わたくし達人類へのメッセージではないのでしょうか。過去の失敗や過ちから多くのことを学んで成長してきたのではないのでしょうか。今までできないと思っていたことに、チャレンジしてみる。今だからできることがあるかもしれない。問題は深刻かもしれませんが、すごいチャンスをいただけたのではないのでしょうか。さてこれから何をしたら良いのか。考え、行動しましょう。



2020年7月20日 ひがし会



2020年4月6日 荏原保護観察協会監査会

けいちょう  
傾聴

荏原東副分区長 田中 元雄

保護司になって有り難かったのは、数多くの研修をうけたことです。いろいろなことを学ばせて頂きました。保護司新任直後、3日間にわたって集中講義を受けましたが、その後、いくつかのオプションの研修もありました。その中に、カウンセリングというのがあったので、これは是非と思って申し込みました。

私は仕事で、悩んでいる人の話を聴くことをしますので、カウンセリングにかかわる研修は数多く受けて来ました。

その初期、ある文化講座でカウンセリングについて学びました。それがカウンセリングについての専門家の話を聴いた初めてのことでした。その時にいろいろ教えて頂きましたが、今でも鮮明に残っているのが、「傾聴」ということでした。

人の悩みを聞くときには、吸い取り紙のようになって、ひたすら相手の言いたいことをとことん聴き取ることが、相手との信頼関係を築くことになると言います。とかく私たちは相手の話を聞くとき、自分の関心で聞こうとしてしまいがちです。自分の聞きたいことを問い糺すのではなく、相手が話したいことを聴き取ることが大事だというわけです。

私たちは、とかく相手の話半ばにして、自分の意見を開陳しがります。相手に対して、「そうじゃないでしょ」という「ノー」から切り返してしまいがちです。そうではなく、「そうだよな」とまずは相手の言うことを聞き入れ、「でもね」という、いわば「イエス、バット」で行きたいところです。これを共感的理解といいます。

ところが、有能な人、アクティブな人、話し上手な人ほど、自分が、自分が、という「我（が）」が出てきます。どんな無口な人でも、心の奥底では、自分の話を聞いてほしいものようです。私は話すのが苦手、きらい、という人でも、本音は「私の話を聞いてよ」らしいのです。

カウンセリングの理論では、それをベースにしているらしく、基本的には、カウンセラーの意見は言わない。徹頭徹尾、相談者の話を聴き、うなずき、相づちを打ち、ミラーリングと言って、相手が言ったことをオウム返しのように「うんうん、その時腹が立ったんだね」と肯定的に包み込むのです。何を聴くのかというと、話し手の言ったことばの背後にある感情を受け取る、ということでした。

そのように、ただ話を聞いたり、自分に関心のあることを質問するのではなく、相手が、「分かってほしいこと」や「伝えたいこと」を真摯に受け止め、共感的な態度で理解に努める聴き方をめざします。

傾聴により、話し手は自分だけではわからなかった自分自身について深く理解することができ、どのような行動をとるべきかについて、気づききっかけを与えることが期待できます。

もちろん相手との信頼関係をもったり、相手に分かって欲しいことを伝えたりするには、相手と自分との間の心地よい話のキャッチボールができるようでありたいものです。

それが本当に出来るようになるためには、まだまだ私には道のりが遠いと思います。

それでも、こんな事がありました。ある年配の女性が、借金まみれで自己破産すべく弁護士に相談して

います。銀座のバーに勤めていた娘さんが病死しました。母親として何の力にもなってやれなかったことで、自責の念に駆られています。そんなで、どうしたらいいか、一日に10回余り電話をしてきました。長い電話をしてきたかと思うと、切って、またすぐに電話をしてきます。「どうしたらいいか、どうしたらいいか」と詰問してきます。しばらくは、電話攻勢で、こちらの仕事が進みません。来客中で電話に出られないこともしばしばです。私のスマホに着信履歴がたくさん残ります。メールでのやり取りもしばしばです。電話をわざと避けているんじゃないか、と思われたこともありました。それでも、ふた月、み月と経つうちに、次のようなメールが入ってきました。

「本格的に死のうか、生きようか、悩んでいます。たちむかえない。ともだちにはそっぽを向かれ、息子にまで迷惑をかけてしまう。」

この時ばかりは、「死ぬな」と、説得的に返信しました。何度かのやり取りのあと、「先生は、ちゃんと人のはなしを、暖かく聞いてくれるかたなんですね」

とか、「先生は、あたたかみのあるかたですね。気持ちがすくわれます。」と書き送ってくれるようになりました。

まだ問題は解決していませんが、「傾聴」がほんの少し身に付きかけているかな。そうだとしたら、うれしいんだけど。これも、長年の研修の賜物かも、と感謝。



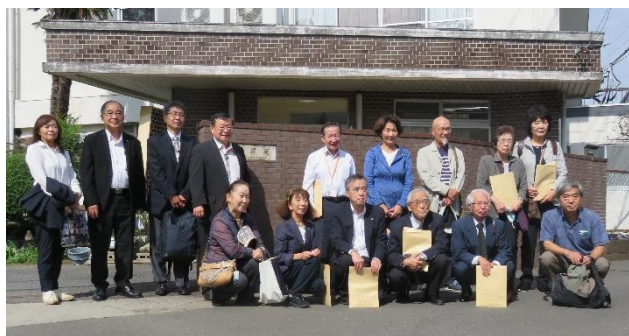
法務省HPより

## 2020 年度総務部活動

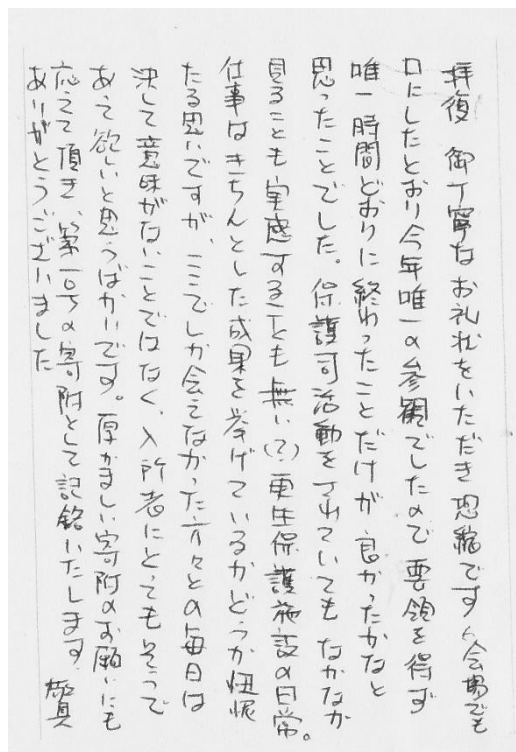
総務部長 井上 耕一

2020 年度は、誰もが経験した事がない一年でした。新型コロナウイルスの脅威とどのように向き合っていくべきか考えさせられました。東京保護観察所からの通達もあり、活動を自粛せざるを得ない状況になりました。分区総会・本区総会・社会を明るくする運動と、形式を変えて実施されました。そんな中で細心の注意を払い実施出来た「ひがし会」2 回の研修は、大変実のあるものでした。品川区地域振興部生活安全担当課長 黛和範氏、警視庁荏原警察署生活安全課長 阿部靖氏の講和は、実に様々な範囲で、大変参考になりました。また、日帰り研修を更生保護法人「紫翠苑」にて実施出来たことは、上村保護司の粘り強い交渉のお陰であり、初めての更生保護施設での研修は大変貴重な経験になり感謝しています。今後は、オンラインによる講習会・研修等 IT 化が、進むと考えられますが、分区としての対応を検討していく事も必要だと考えます。

分区として大切な過渡期を迎えており、このような時に活動ができない状態は、大きな痛手ですが、今までとは同じようには出来ないと思い、何とか出来る方法を模索して、運営していきたいと思えます。



令和 2 年 10 月 13 日 日帰り更生保護施設参観  
「紫翠苑」



「紫翠苑」施設長 真田安浩氏より  
上村きみ子保護司に届いた手紙

## 2020 年度研修部活動

研修部長 伊藤雅志

2020 年度の研修部活動は、COVID-19 感染症の影響を受け以下の通りとなりました。

令和 2 年 6 月 25 日	第 I 期地域別定例研修「生活環境の調整について」 (東京保護観察テキストにより研修受講とする)	中止
令和 2 年 7 月 16 日	第 1 回本区自主研修「薬物乱用について」	中止
令和 2 年 7 月 20 日	東分区第 1 回自主研修 講演開催 品川区地域振興部生活安全課長 黛 和範 様 その他 2 名	保護司 10 名
令和 2 年 10 月 8 日	第 II 期地域別定例研修「面接について」 (東京保護観察テキストにより研修受講とする)	中止
令和 2 年 10 月 13 日	日帰り更生保護施設参観「紫翠苑」	保護司 10 名 その他 6 名
令和 2 年 10 月 26 日	東分区第 2 回自主研修 講演開催 荏原警察署生活安全課長 阿部 靖 様	保護司 12 名
令和 3 年 1 月 18 日	東分区第 3 回自主研修「保護司面接のための SST」	中止
令和 3 年 1 月 28 日	本区研修部会	保護司 1 名
令和 3 年 2 月 18 日	第 III 期地域別定例研修「薬物事犯者の処遇について」 (東京保護観察テキストにより研修受講とする)	中止
令和 3 年 3 月 18 日	第 2 回本区自主研修会「薬物乱用について」	中止

東京保護観察所及び本区の研修については、軒並み実施できませんでした。

荏原東分区としては、緊急事態宣言が解除された後、太田分区長の「保護司活動を停滞させてはいけない」という熱い思いから、感染防止に努め、ひがし会を 2 回、施設見学日帰り研修を実施しました。

施設見学は、毎年矯正施設見学が中心でしたが本年度は、上村保護司からのご提案とご手配をいただき更生保護施設の見学となりました。荏原観察協会の谷さんのお世話になり、品川区特別商品券と Go-To トラベルを利用することができたため、密を避けて大型バスを 16 名で利用しましたが、料金を低く抑えることができました。お土産チケットも利用することができました。

来年度は、施設見学研修が東西合同の年となっています。西分区が幹事当番となっています。東京オリンピック・パラリンピック開催が予定されているため、コロナウイルス感染症対策状況と合わせて研修を進めていかなくはなりませんので、予定を立てづらいと思います。また、ひがし会の開催内容については、毎回悩んでいます。分区の皆さんより希望や提案をいただきたいと思っています。

## 品川の雰囲気についての随想～「土地の記憶」から「文化」へ

品川区役所地域活動課

生活安全担当課長

黛 和範

品川区役所地域活動課生活安全担当課長の黛と申します。

昨年4月に警視庁から出向して現職に着任し、以来、皆様のお力をお借りしながら、安全で安心してくらせるまちづくりに取り組んでおります。

先般開催された荏原東分区「ひがし会」には、お忙しい中を多くの先生方にお集まりいただき私のつたない話をお聞きくださいませ、本当にありがとうございました。

また、この度も本誌に寄稿させていただく機会を頂戴し、大変恐縮しておりますが、せっかくなので、常々私が品川に感じている「人と人の距離の近さ」や「あたたかさ」とは何なのかなどについて、随想風に記してみたいと思います。

自分の住むまちに誇りを持ったり、愛着を持つのは素晴らしいことですが、これが行き過ぎますと、「よそ者」に対して妙に冷たい態度を取ったりすることがあります。その際たる例として、多くの方が千年王城京都を思い浮かべるでしょうがお待ちあれ。我らが東京でも、かつては(今でも?)「こちとら、神田の水道で産湯を使った江戸っ子でえ、一昨日来やがれ、この田舎者！」なんて言ったとか言わないとか・・・

ところがです。同じ東京でも品川はちょっと違うように感じます。

我がまちに対する誇りと愛情は他のどこにも負けないくらい強いのに、「来るものを拒まず、よそ者を排除しない」という雰囲気があるのです。それも圧倒的な。これが私の感じた「距離の近さ」や「あたたかさ」の核をなすものではないかと思っています。

では、何故、品川にこうした雰囲気があるのか。私は浅学で学術的な考証はできませんが、ただ、品川には多数の貝塚が残っていることからすると、このエリアが縄文の太古から住み良い場所であったことは間違いのないように思われます。そして、「多数ある」ということは、どんどん人が増えていったということで、それはすなわち、先住者が後から来た人を排除せず、仲間として迎え入れたということに他なりません。かつて、国民的歴史作家の司馬遼太郎は、「歴史は、そこに暮らす人々の心の中だけでなく、その土地にも『記憶』として残り、そこに固有の文化を作る」という趣旨のことを著書の中で述べました。そうであるならば、品川の持つ雰囲気は、あるいは縄文当時のそれが土地の記憶として残ったものであり、文化と呼ぶことができるかも知れません。

私の想像の是非はともかく、最後に、品川の持つ雰囲気を安全・安心なまちづくりの視点で考えてみたいと思います。

近年、国内の犯罪発生数は減少傾向にあるものの、再犯率が上昇しつつあり、安全で安心な社会を築く上で「再犯の防止」が新たな課題となっています。このため、全国の保護司会では、罪を犯した人を社会から排除・孤立させるのではなく、再び受け入れることが自然にできる「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、様々な取り組みを進めております。



この我々が目指す社会、その姿がいかなるものであるかを、改めて具体的に想起するとき、私は、品川の持つ「来る者を拒まず、よそ者を排除しない」という雰囲気、それに極めて近いのではないかと思わずにはられません。

そして、それらは先生方の活動によって維持されながら魅力を増し、次の世代、更に次の世代へと引き継がれ、やがてこの土地の記憶となって文化へと昇華していくのであらうと思いました。

以上、縷々取り留めもないことを書き連ねてまいりましたが、最後までお目通しいただきありがとうございました。末筆ながら、荏原東分区の今後益々のご隆盛と、先生方の更なるご健勝をご祈念申し上げます。

黛課長には、ご多用の中、ひがし会の研修に講師としてお招きし、貴重なご講義を賜りました。有難うございました。

### ～ ひがし会（東分区自主研修）の様子 ～

第1回自主研修 2020年7月20日 講師 黛 和範氏（地域振興部生活安全課長）



第2回自主研修 2020年10月26日 講師 阿部 靖氏（荏原警察署生活安全課長）



## 保護司活動 20 年間を振り返って

中川 治子



保護司の委嘱を受け 20 年間活動してきました。大先輩の上島さんから PTA つながりで声を懸けていただき、いろいろ話を伺い最後に“僕がレクチャーするから心配しなくていいよ”との一言で受けてしまいました。委嘱を受けて 3 ヶ月目から保護観察を担当しました。対象件数は中学生から 70 代後半の高齢者まで 23 件、対象者数は 20 人。事件内容は様々でした。どのケースも悩みながら担当してきました。担当した中から 4 件のケースを書きます。

- ① 保護司になって 3 ヶ月になった頃初めてのケースを担当しました。“保護司の手引き”を抱えて読み、取り組んだことを思い出します。対象者は当時、中学を卒業したばかり。恐喝未遂で保護観察になった 15 歳の少年でした。仕事は寿司屋の店員。未成年のため 22:00 まで仕事、その後来訪。結果 22:30 頃からの来訪のため、帰りは寮の近くまでおしゃべりをしながら送って行きました。往訪は男の子一人のためか部屋の汚さに雑巾持参、掃除をしてからの面接でした。3 月に担当し、寿司店が閉店となり大田区の実家へ帰っても 1 か月ほど担当。約 8 カ月間の担当でした。店が火を出してしまったりいろいろありましたが、遅い時間の来訪・往訪でしたので、我が家の家族に迷惑をかけてしまったケースでした。
- ② その後も、少年（女子も含む）の担当が多く、大人の人の環境調整がきたのは薬物事犯の対象者でした。この時は、本人の妻が住んでいるかの確認が出来ず、今は亡くなられた西脇さんが、不動産業をされていたので協力していただきました。また、当時の北條分区長からもいろいろ教えていただいたのですが確認出来ず、門奈主任官に相談。  
配達証明付の手紙を利用して確認することを教えていただいたのもこの時です。その後は施設にいる本人との手紙のやりとりの中から、引受人を大田区の友人に変えることとなり西蒲田へ行き話し合い。後、本人の実姉からの電話が頻繁にある中、本人の体調不良で八王子医療刑務所へ移送の通知がきました。何日か後、担当終了の通知が届き 1 年に亘る環境調整が終わりました。
- ③ 75 歳の方の環境調整を受けた時、引受人は友人と書いてありましたが、以前恋人関係だったという感じで受けてくれてほっとしました。一部屋の生活から二部屋あるアパートに移り、仮出所後 3 カ月間引受人としての任をまっとうしてくれました。本人は仕事への意欲のある人でした、ハローワークで 4 か所のごみ出しの仕事を見つけてきたり、就労支援に苦労しませんでした。その当時小野沢先生が民生委員をされていたのでいろいろ教えていただき何度か区役所へ二人で通い、最終的に生活保護をうけることが出来たケースです。
- ④ 担当した当時、中学生だった子（その当時から遡って 4 年前に保護観察は終了）からきゅりあんのエレベーターの中で“中川さんですか？”と声をかけられました。二言三言の会話でしたが、頑張ってい

る姿に嬉しい思いを味わいました。この子は中一の夏休みに、母のパソコンを悪戯しているうちにインターネットにアクセス、援助交際をしてしまった子でした。保護観察が始まって2回目の来訪の翌日に、クラスの男子と勉強のはずが、彼女の部屋でセックスしている現場を父親が見てしまったため大変なことになりました。父親は学校や相手の親の所へ行くといきり立ち、母親は泣いてしまい収めるのに一苦労しました。その後、本人が何人もの人と援助交際をしていたことが分かり、性病の心配も出てきました。性病の検査に行かせ、恐さを一緒に勉強したりと、毎回長時間の来訪・往訪となっていました。検査の結果は性病への罹患がなく、ほっとしたことを思い出しました。ほっとしたのもつかの間、本人は感情の起伏が激しく、部屋に燃やした跡があったり、壁をドンドンと激しくけったりの我が子に対して“怖い”と母から連絡が入るようになり、あげくは少年院に入れてくれと毎回の往訪時に言われ説得が大変でした。また、本人は都合が悪くなるとウソをつくことの繰り返しで何度も呼びだされて往訪したケースでした。本人は勉強よりもスポーツが得意な子でしたので、運動会等の学校行事の知らせをいただくと出席し、励ましをするようにしました。卒業式には髪を黒く染め直し参列するよう言われスプレーで染めるなど大変でした。その当時なぜ美容室へ行かなかったのか今考えると疑問が残っています。その後もいろいろありましたが、1年が経過する頃には落ち着き、高校1年の夏休み前に担当終了となりました。



2017年2月8日 岩国錦帯橋 (前列右端)



2017年8月31日 京都二条城 (前列中央)

中川さん 20年間おつかれさまでした。





## 中川さんへの感謝



中川さんにはあらゆる事で大変お世話になりました。

私は平成18年に荏原東分区に入らせていただきましたが、現在に至るまで中川さんは私のお手本です。少しも近付けていませんが・・・・・・・・。

研修時には勿論、会合の際も小さなきれいな字で綿密なメモを取っていらっしゃいました。私は下手な大きな字でいいかげんな事しか書けません。また、中川さんは勉強熱心で、多くの本を読んで知識をどんどん蓄えていらっしゃり、度々研修時に鋭い質問をなさるので、私は感心し通しでした。

対象者には優しい視線を向けられ、「ひがし会」でご自分の苦勞なされた事例を話された時には、そんな事まで対象者にしてさしあげていらしたのかと感服しました。

以前は保護司どうし名前を呼び合う時、「中川先生」というように「先生」を付けていましたが、中川さんは「それはおかしい。止めましょう。」と常におっしゃり、いつの間にか「先生」と呼び合う事がなくなりました。

私が一番お世話になったのは分区の会計部です。几帳面な中川さんの後を引き継ぐには全く不資格な私でしたが、一年間を通しての会計部の動き、気を付けなければいけない事項等が細かく記載された覚え書きノートをくださいました。その「手引き」のおかげで何とか会計部を続けております。

本区、分区の施設研修では必ず同室させていただき楽しく過ごせました。二日間ご一緒していると見習うべき事柄が沢山あり、良い思い出ばかりです。毅然としていて心暖かい中川さんは保護司らしい保護司さんです！！お会いすることが少なくなり淋しいかぎりですが、いろいろな機会にお目にかかりお話しさせていただく事を楽しみにしております。

ご一緒できた14年間、深く感謝申し上げます。

上村 きみ子

中川さん、長い間お世話になりました。ありがとうございます。

中川さんとの出合から20年が経ち、私が保護司を拝命してからの再会でした。この日迄、控え目で静かな佇まいの印象だった方が、一変して積極的な行動に別人の様でした。専門的な用語や施設の呼び名その役目等々熟知されていました。また、保護司と更女で一緒に、広報部を担当した時も適格な言葉遣いや表現など木目細かな作業に学ぶ事ばかりでした。それも、昨年のお引越しの時に、沢山の書物を処分されると云う事で納得が出来ました。知恵袋の原典だと熱心に取り組んでこられたのですね。また最近、中川さんの体調の事もあって、一泊研修など一緒に出来ませんでした。お風呂好き同士楽しかった思い出もありますね。

これからは、更女で引き続き活躍して下さると思っておりますので、是非ご指導をお願いいたします。小柄ながらもパワフルな行動は、まだまだ現役です。新たなご活躍をお祈り申し上げます。

深津 範子

## 新任のあいさつ

海沼 実

このたび新任保護司としてお仲間に加えて頂きました海沼（かいぬま）と申します。警察署協議会でのご縁からお声を掛けて頂き、思いがけないコロナ禍中の新任となりました。研修なども満足に受けられないまま担当を任され、経験不足ながらも誠心誠意で前向きに取り組ませて頂いております。

本業は音楽家で、創設90年近い老舗の合唱団を運営する傍ら、作編曲や音楽イベント制作も行っております。区内では過去に「品川音頭」の制作などにも携わらせて頂きました。また、地元の戸越三丁目では少林寺拳法の道場を開設し、週に数回、100名ほどの門下生たちと汗を流しております。

私自身、5人の子を持つ父親の一人として、地域の子どもたちを育む環境をより良いものにしていくための保護司の活動は、大変意義あるものと考えております。若年ゆえ不慣れな点もあり、何かとご迷惑をお掛けすることもあろうかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

### ～ 荏原東分区 メンバー紹介～

(五十音順)

<u>保護司名</u>	<u>役職、所属</u>	<u>担当中学校</u>
・伊藤 雅志	研修部 部長	豊葉の杜学園
・井上 耕一	総務部 部長	豊葉の杜学園
・太田 明	分区長	富士見台
・沖山 弘隆	地活部・研修部	大崎
・長田 豊幸	地域活動部部長	戸越台
・海沼 実	9月1日新任	戸越台
・上村 きみ子	会計部 部長	豊葉の杜学園
・木村 健悟	地域活動部	戸越台
・栗田 恵造	監事 BBS	富士見台
・高村 幸弘	副分区長	戸越台
・田中 元雄	副分区長	戸越台
・谷川 寛	研修部	富士見台
・中川 治子	地活・広報・更女	12月21日退任
・中村 國雄	広報部 部長	豊葉の杜学園
・原 健治	広報・地活	豊葉の杜学園
・深津 範子	更女・研修部	富士見台
・福田 廣光	監事	豊葉の杜学園
・本道 秀夫	総務部	豊葉の杜学園
・松澤 利行	全般	大崎



## ～ 品川区保護司会の活動 ～



### 保護司とは

保護司は「保護司法」に基づき法務大臣から委嘱を受け犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支えるボランティアです。

保護観察官と協働して保護観察や生活環境の調整を行うほか、地域の関係機関・団体と連携して、犯罪予防の活動に取り組んでいます。全国で約4万8千人の保護司が地域社会の安全・安心・住民福祉の向上に貢献しています。

### 保護司の活動は

保護司は、次のような活動をしています。

#### ①保護観察

犯罪や非行をした人に対して、更生を図るための約束ごと（遵守事項）を守るよう指導するとともに生活上の助言や就労の援助などを行い、立ち直りを助けます。

#### ②生活環境の調整

少年院や刑務所に収容されている人が釈放後にスムーズに社会復帰を果たせるよう、帰宅先の調査、身元引受人との話し合い、就職先の確保などを行い、必要な受け入れ態勢を整えます。

#### ③犯罪予防活動及び再犯防止活動

犯罪や非行を未然に防ぐために、品川区・関係団体・学校・事業主などと連携して犯罪の予防に努め、社会復帰を支援して再犯を防止するなど、地域に根差した活動を行っています。毎年7月には「社会を明るくする運動」として街頭キャンペーンなどを行い、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、活動しています。

### 保護司になったら

保護司は、住居地を管轄する法務省 保護観察所（全国50箇所）に配属され、地域の保護司組織（品川区保護司会）に所属します。

### 品川区保護司会

品川区保護司会は、品川、大崎、大井、荏原東、荏原西の5つの分区（支部）に分れ、それぞれの地域で分区会をもち、東京保護観察所と連携して更生保護のために様々な活動を行っています。各分区から選出された理事による理事会及び総務部、研修部、地域活動部、広報部、会計部が組織され、すべての保護司で運営をしています。



### このような人たちが保護司として活動しています

様々な分野において仕事をしている人、家庭の主婦、会社などを定年退職した人など多様な人が保護司になっています。

66歳以下（最初の委嘱時）で任期は2年ごとで再任されます。再任時の上限は、76歳未満までです。

### 社会を明るくする運動



駅前広報活動



伊藤学園吹奏楽部記念演奏



品川宿場まつりパレードでの広報活動

### 品川区保護司会は 犯罪のない品川区をめざします

#### ●更生保護女性会

女性の立場から地域社会の犯罪・非行の未然防止のための啓発活動や青少年の健全育成、犯罪をした人や非行少年の更生に協力する女性ボランティア団体です。

#### ●BBS会 (Big Brothers and Sisters)

兄や姉のような身近な存在として少年と接しながら、自分自身で問題解決したり、健全に成長していくことを支援するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体です。

#### ●社会貢献活動への参加協力

保護観察中の人たちに、地域社会に役立つ活動をしてもらうことで、人に役に立てるという感情や社会のルールを守る意識を育む「社会貢献活動」を保護観察所が実施し、保護司会として協力しています。



## ～ 編集後記 ～

100年に一度というパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。ソーシャルディスタンスの確保やリモートの推進など社会生活の様式は様変わりしました。しかし、ふれあいの中から生まれる心のつながりは、どんな時世においても揺るぎないものとして大切にしていきたいと思います。地域社会が明るくなることを祈りつつ、私たちの活動が本誌を通じて伝われば幸いです。今回、ご多用にもかかわらず、みなさまから素敵なお寄稿を賜りました。心より厚く御礼申し上げます。

広報部 原 健治

令和3年3月吉日発行

広報部 中村 國雄  
中川 治子  
沖山 弘隆  
原 健治